

経験者選考採用職員(事務官)の紹介

課長補佐級

情報流通行政局 郵政行政部企画課
統括補佐

萩原 一博

Hagiwara Kazuhiro

(令和2年度 採用)



Q. 民間企業から総務省を志望した理由は？

A. 世の中への貢献度の高い仕事がしたいと考えたから。

元々、ICTの活用や情報通信におけるリスク等に関心があったところ、自らの仕事が生の中にもどだけ貢献しているか考える機会があり、総務省への転職を決めました。入省後、社会問題化するSNS上の誹謗中傷対策や、データセンター等の分散立地のための基金造成等の業務を担当した他、令和4年の大規模通信障害の対応にも関与しました。このように、世の中への貢献度の高い仕事に携われることは国家公務員の大きな魅力です。

Q. 現在、総務省でどんな仕事をしていますか？

所属する郵政行政部では、日本郵政グループにおける経営状況の把握や新規業務の認可・届出対応、不祥事案対応の他、郵便局における地域貢献の在り方の検討などを行っており、私は部全体の統括として、部内外の調整・とりまとめ業務等に従事しています。その他、部長・課長からの指示により独自案件の対応も行っています。

SCHEDULE

- 09:30 出勤、メールチェック
- 10:00 資料案の作成
- 12:00 昼休み
- 13:00 事業者との打合せ
- 14:00 国会対応の調整
- 16:00 課長との打合せ
- 17:00 資料案の作成



- ① 民間企業で得た知見も活かしつつ、相談しながら対応方針を決めていきます。
- ② 明るく楽しい職場です！必要なのはやる気と笑顔！

<総務省を志望する皆さんへ>

Message



政府のDX関連施策などにご提案がある方、社会課題に取り組みたい方、影響範囲の大きい仕事をしたい方、霞ヶ関の公務員だからこそできることがあると思います。

ただ、霞ヶ関で大きな仕事をするには、民間企業での仕事とは比較できないほど多くのハードルを越えなければなりません。そのため、私は、近年注目されている「GRIT(やり抜く力)」が必要な職場だと考えています。ご自身が、困難に遭ってもくじけない闘志、気概や気骨などを意味する「GRIT」の持ち主だ、という方は、是非、総務省の門を叩いていただければと存じます。

経験者選考採用職員(事務官)の紹介

課長補佐級

自治税務局 市町村税課
住民税企画専門官

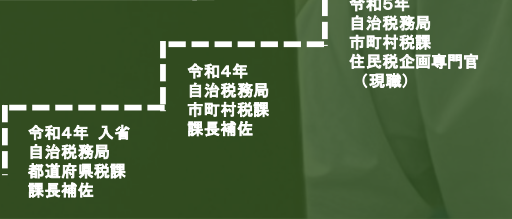
西畑 宏治

Nishihata Koji

(令和4年度採用)



Career Step



Q. 総務省を志望した理由は？

A. 地方公共団体の基本的な機能を規定する制度に携わりたいから。

私は、これからの日本社会において、地方公共団体の存在・役割が重要であると認識し、地方公共団体でも勤務してきました。これゆえに、地方公共団体に関わる分野に引き続き身を置きたいと考えていた中で、総務省では、制度を運用する地方公共団体の側の視点のみならず、制度を設計する側の視点からも地方自治制度に携わることができ、改革の場面にも立ち会えるのではないかと考えました。

Q. 現在、総務省でどんな仕事をしていますか？

地方公共団体が提供する行政サービスを支える中核的な財源である地方税に係る制度の企画・立案の一端を担っています。具体的には、個人住民税や森林環境税・森林環境譲与税といった税目を担当し、これらの税目に関する課題について、日々考え、対応策を検討するなどしています。また、来年度の税制改正に向けて検討を行っています。

SCHEDULE

- 09:30 出勤、メールチェック
- 09:45 局長室での打合せ
- 10:00 地方財政審議会での説明
- 12:00 昼休み
- 13:30 国会議員への説明
- 15:00 部下との打合せ
資料の作成
- 17:00 課長との打合せ



① 各種の会議に出席し、説明が求められます。



② 上司や部下と相談しながら業務を進めます。

Message



<総務省を志望する皆さんへ>

私がこの紙面でお伝えできるのは、総務省の持つ幅広いフィールドのほんの一部(地方自治行政の中のさらにほんの一部)にすぎません。経験者採用で入省すると人を知らないという難しさに直面するものですが、それでも余りある刺激的で面白い仕事が総務省のどのフィールドでも待っていると思います。ぜひ飛び込んでみてください。お会いできることを楽しみにしています。

経験者選考採用職員(事務官)の紹介

係長級

情報流通行政局 地域通信振興課
係長

石橋 結衣

Ishibashi Yui

(令和4年度採用)



Career Step

令和4年 入省
情報流通行政局 地域通信振興課
係長 (現職)

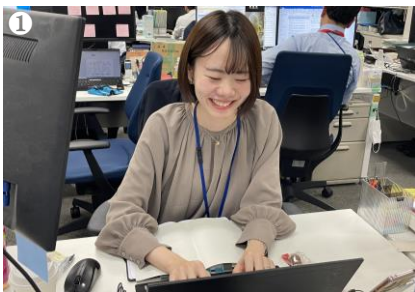
Q. 民間企業から総務省を志望した理由は？

A. 暮らしに寄り添う総務省で、多くの人の役に立ちたかったから。

総務省を選んだ理由は、キャッチフレーズ「暮らしの中に総務省」のとおり、国民の皆様の日常生活に寄り添い、より暮らしやすい社会を実現するための仕事ができると考えたためです。総務省の所掌業務は多岐に渡り、情報通信や地方自治等様々な分野に携われることも魅力的でした。また、私は前職で自治体に出向していたため、引き続き全国の自治体の皆様とともに、地域振興・課題解決に携わる仕事をしたいという気持ちもありました。

Q. 現在、総務省でどんな仕事をしていますか？

私は、情報通信技術を用いた災害情報等の伝達効率化のため、Lアラートの活用・高度化の推進における関係者との調整業務等を行っています。Lアラートは自治体、メディア、アプリ事業者等の皆様にご利用いただいているため、関係者は多岐に渡りますが、より有意義な仕組みとすべく皆様のご意見を伺い検討を進めています。



- ① テレワークやオンラインツールを活用し、効率的に仕事ができる環境です。
- ② 1つの業務や課題を、少人数2~3人のチームでじっくり検討して進めていきます。

SCHEDULE

09:30 出勤、メールチェック

11:00 事業者との打合せ

12:00 昼休み

14:00 資料案の作成、事務作業

16:00 事業者との打合せ

Message



<総務省を志望する皆さんへ>

入省後1年が経過しましたが、当初の志望動機のとおり「地域と接点を持ち、地域の課題解決を行う」業務に携わることができており、やりがいを感じています。

私自身選考の際には不安もありましたが、面接試験で先輩職員とお話した際、難しい課題に対しても熱意を持って取り組む姿勢に感銘を受け、『こんな魅力的な方々と一緒に働きたい!』と強く感じたことを覚えています。

近年経験者採用者も多数活躍しておりますので、迷われている方はぜひ応募してみてください!

皆様と一緒に、総務省で仕事が出来ることを楽しみにしております。

経験者選考採用職員(事務官)の紹介

係長級

行政評価局 政策評価課
係長

長谷川 礼奈

Hasegawa Rena

(令和4年度採用)

Career Step

令和5年
行政評価局 政策評価課
係長(現職)

令和4年 入省
行政管理局 調査法制課
主査

Q. 地方自治体から総務省を志望した理由は？

A. 行政の信頼を確保し、広く人へつながる仕事をしたかったから。

私が総務省を志望したのは、行政に関わり信頼性を確保する仕事をしたいと考えたからです。地方自治体で勤務する中で、市民の方々と近い距離で関わり信頼を得られることが嬉しかった反面、自身ができる範囲には限界があるのではないかと感じていました。総務省は国家行政の共通制度を所管し、信頼できる効率的で質の高い行政の実現を目指しています。国民の方々に広くつながる仕事ができることは、総務省の魅力の一つだと感じます。

Q. 現在、総務省でどんな仕事をしていますか？

EBPM(エビデンスに基づく政策立案)推進のため、各府省が作成する行政事業レビューシートについて、重点フォローアップ対象となった事業の伴走型支援を行っています。
行政事業レビューシートは予算事業の進捗や効果を成果目標に照らして点検している資料のため、内容が分かりやすく記載されるよう検討・提案をしています。



- ① 主担当として業務に携わりますが、一人で抱え込むことはなく周囲と相談しながら進めることができます。
- ② 省内だけではなく多くの方と関わる機会があります。調整は大変なときもありますが、面白い仕事です。

SCHEDULE

- 09:30 出勤、メールチェック
- 10:00 班内の方針打合せ
- 12:00 昼休み
- 13:00 担当する府省へ連絡
- 14:00 プロジェクトの会議準備
- 16:00 資料の作成

<総務省を志望する皆さんへ>

皆様が仕事をしている中で嬉しいと感じる瞬間はどのようなときでしょうか？様々あるかと思いますが、関わった方々の笑顔を見られたときに仕事のやりがいを感じる方もいらっしゃるかと思います。総務省では広く国民生活に関わる仕事に携わることができ、仕事の先にいらっしゃる方々を想像しながら仕事をすることができます。今まで得た経験を生かしながら、理想とする国づくりに携わることに関心があれば、是非総務省を御検討ください。あなたのしたいと思っている仕事ができる職場だと思います。

Message



経験者選考採用職員(技官)の紹介

課長補佐級

総合通信基盤局 電気通信事業部
電気通信技術システム課
課長補佐

生天目 翔
Nabatame Sho

(令和3年度採用)



Career Step



Q. 民間企業から総務省を志望した理由は？

A. 日本のICT政策の舵取りに自ら関わり、貢献したかったから。

私は、高校でアマチュア無線を始め、大学では通信工学や放送技術などを研究し、その後就職した民間企業では通信技術に関する研究開発に従事していました。もともと通信全般に興味がある中で、この分野の新しい技術やそれら技術を踏まえた制度や政策が、日本という国でどのように舵取りされているかを知り、より良くしていきたいと考え、総務省を志望しました。

Q. 現在、総務省でどんな仕事をしていますか？

現在、総務省が委託する研究開発の推進、ITU-Tなどの国際標準化対応、非常時における事業者間ローミングの推進を担当しています。最新の技術の動向をキャッチアップしながら、担当している研究開発のボトルネックとなっている課題を確認したり、最新の技術についてステークホルダーの意見を聞いたり、今後の進め方の調整やとりまとめを行っています。



- ① 総務省が推進する非常時における事業者間ローミングについて、上司と相談しながら進め方の確認を行っています。仕事を進める上では、報連相を徹底しています。
- ② 民間事業者とオンラインでミーティングを行い、課題の確認や進め方の議論を行っています。

SCHEDULE

- 09:30 出勤
- 10:00 メールチェック
標準化に関する打ち合わせ
- 12:00 昼休み
- 13:00 資料整理
- 14:00 事業者との打ち合わせ
- 16:00 上司と課題についての議論
- 17:00 他省庁との打ち合わせ

Message



<総務省を志望する皆さんへ>

民間企業での経験は、専門知識や業務の進め方など、総務省においても幅広い方面に活かすことができます。国家公務員・総務省ならではのものとして、制度や国会に関係する業務などもあります。それらは入省後にOJTで身に着けることができます。ぜひ様々なバックグラウンドをお持ちの方に総務省の門戸を叩いて頂き、一緒に新しいICT政策の舵取りに関わり、より良い日本のために邁進いただけることを期待しております。